

神奈川

ミュージアム機能や見学コースを備えた“開かれた工場”がこの2、3年、神奈川県内に相次いで誕生している。CSR（企業の社会的責任）の一環として「良き企業市民」を目指し、顧客や地域との良好な関係を築くのが狙い。見学者の増加により、工場だけでなく地域全体がにぎわうという経済波及効果も生まれている。

贈答用アソートクッキーの国内トップメーカー「ちぼり」（湯河原町）は昨年11月、グループ本社と工場からなる「ちぼり湯河原スイーツファクトリー」を開設した。4階建て、延べ床面積約6,070平方メートル。テーマは「五感で楽しむ工場」。2階の工場見学窓からは、熟練菓子職人の華麗な手作業やロボットの俊敏な動きが見られる。

JR湯河原駅から徒歩3分という立地を生かし、1階フロアには子どもも参加できる菓子づくり体験コーナー、ガラス張りのスイーツ工房、できたてのスイーツが食べられるカフェスペースなどを設けた。工房では職人が湯河原ミカンなどの特産品を使い、生菓子や焼き菓子など「ここでしか味わえないスイーツ」を制作している。初年度の来館者目標は10万人。

日本ハム系列の高級ブランドハム・メーカー「鎌倉ハム富岡商会」（鎌倉市）は2016年6月、歴史資料館を併設した新本社工場（同）をオープンした。3階建て、延べ床面積約6,720平方メートル。1、2階の見学通路からは、伝統的な「布巻きコースハム」の製造工程などがガラス窓越しに見られる。

歴史資料館では、横浜開港直後に来日し、1870年代に鎌倉郡川上村（横浜市戸塚区に編入）で自家製手作りハムを製造した英国人料理人ウィリアム・カーティスを創始者とする鎌倉ハムの歴史を解説。その流れを汲んで、駅弁製造販売の「大船軒」のハム製造部門としてスタートした同社の沿革史にも触れている。

シウマイの「崎陽軒」は昨年5月、横浜工場（横浜市都筑区）を約2,800平方メートル増床して弁当工場を新設。新たに開発したシウマイ弁当のひも掛け機の稼働状況などが見学できるツアーを始めた。キンピールの横浜工場（同市鶴見区）も16年10月、操業90周年を記念して見学コースを刷新、充実させた。

いすゞ自動車は昨年4月、藤沢工場（藤沢市）の隣



「ちぼり湯河原スイーツファクトリー」の工場見学窓からは熟練菓子職人の華麗な手作業が見られる

“開かれた工場”が相次ぎ誕生

接地に同社の歴史や車づくりの技術などを紹介する「いすゞプラザ」（3階建て、延べ床面積約5,900平方メートル）をオープン。日産自動車も同月、主力生産拠点の追浜工場（横須賀市）の見学者用ゲストホールを改装し、ブランド発信機能を強化した。

一方、京浜急行電鉄は19年秋、横浜・みなとみらい21地区に移転する本社ビル（地上15階、地下2階、延べ床面積約2万3千平方メートル）の1階に「京急ミュージアム」を開設する予定。資生堂も18年末、同地区にオープンする新研究所（地上16階、地下1階、延べ床面積約5万8千平方メートル）の2階に複合ミュージアムを設けることを明らかにしている。

“開かれた工場”や企業博物館の有用性は、全国に500以上（13年、帝国データバンク史料館調べ）もの施設が存在していることが証明している。運営母体の都合により規模縮小や閉鎖に追い込まれたところもあるが、景気動向に左右されず企業の身の丈にあった施設を維持し続けることで、顧客や地域との良好な関係が築かれるのではなかろうか。